

S022 | シンポジウム 22

【併催学会】 口腔衛生 歯内療法

禁煙指導・支援から脱タバコ・脱ニコチン治療へ



[モデレーター] ^{はにおか} 埴岡 ^{たかし} 隆 (福岡歯科大学 教授〈口腔保健学講座〉)

- 略歴● 1981年 大阪大学卒業/1988年 歯学博士(大阪大学)/2016年 財政制度等審議会たばこ事業等分科会表示等部会参考人(財務省)/2016年 World Health Organization, Tobacco Free Initiative/Prevention of Noncommunicable Diseases コンサルタント

S
シンポジウム

S022-1 WHO が歯科に推奨する脱タバコ介入



^{おがわ} ^{ひろし}
小川 祐司
(新潟大学大学院医歯学総合研究科 教授〈予防歯科学〉)

WHOでは、プライマリーケアにおける簡易禁煙支援を口腔保健プログラムに統合する科学的基礎を築くために、“WHO monograph on tobacco cessation and oral health integration”を公表し、口腔保健の専門家が5Asと5Rsモデルを通して、すべてのタバコ使用者に3分から5分の短い禁煙介入を日常的に提供することを提唱している。

本講演では、このWHO monographの内容をもとに、口腔保健における禁煙支援の今後について考察する。

- 略歴● 1994年 日本大学松戸歯学部歯学科卒業/1996年 シドニー大学大学院歯学研究科修士(歯科公衆衛生学)/2001年 博士(歯学)(新潟大学大学院医歯学総合研究科)/日本口腔衛生学会国際交流委員会委員長、WHO協力センター長(口腔保健、新潟大学JPN-75)

S022-2 口腔粘膜とニコチン



^{なが} ^{とあ}
長尾 徹
(愛知学院大学歯学部 主任教授〈顎顔面外科学講座〉)

喫煙者の口腔粘膜をじっくり観察すると、頬粘膜は青白い霞がかかったような色を呈しており(白色浮腫)、また口蓋粘膜にはぼつぼつと斑点のようなものが見られる(喫煙者口蓋)。ニコチンの口腔粘膜への局所作用が、口腔前癌病変から口腔癌を引き起こすことは疫学的に証明されている。新型タバコがニコチンデリバリーシステムとして口腔粘膜にどのような影響を及ぼすかはまだよく分かっておらず、今後注視していく必要がある。

- 略歴● 1980年 愛知学院大学歯学部卒業/1990年 歯学博士(愛知学院大学)/2006年 医学博士(藤田医科大学)/日本口腔外科学会理事、フィリピン口腔顎顔面外科学会名誉会員授与

S022-3 歯周病とニコチン



^{いな} ^{こう}
稲垣 幸司
(愛知学院大学短期大学部 教授〈歯科衛生学〉)

タバコ煙が最初に通過する口腔は、継続的な刺激が、う蝕、歯周病、口腔がん等の口腔疾患の発症、進行に関与し、審美障害、咀嚼、嚥下、発音等の口腔機能の低下を促す。歯周治療は、歯周基本治療の段階で、早期に禁煙を促し、禁煙支援をスタートさせる必要がある。日本歯周病学会の『歯周治療における禁煙支援の手順書』をもとに、喫煙に起因する歯周炎の臨床所見、歯周治療指針、禁煙の効果について、呈示する。

- 略歴● 1982年 愛知学院大学歯学部卒業/1986年 歯学博士(愛知学院大学歯学部)

S022-4 口腔インプラントとニコチン



^し ^ま
塩田 真
(東京医科歯科大学大学院 講師〈インプラント・口腔再生医学分野〉)

インプラント治療は優れた機能や、審美性を創る欠損補綴の優等生として広く用いられている。しかし multidisciplinary に構成されるインプラント治療は、各領域の技術に支えられるとともに複数のリスク因子を抱えている。特にインプラント手術や、インプラント周囲炎への喫煙の影響は看過することができない。ここではニコチンのインプラントへの影響を再確認するとともに、逆に禁煙手段としてのインプラント治療について考察したい。

- 略歴● 1980年 東京医科歯科大学卒業/1984年 歯学博士(東京医科歯科大学)/日本口腔インプラント学会理事、International Team for Implantology Fellow

S022-5

う蝕とニコチン



おじま みき
小島 美樹

(梅花女子大学 教授〈看護保健学部口腔保健学科〉)

喫煙とう蝕との関連を示す多くの疫学研究から、その因果関係が示唆されている。喫煙とう蝕をつなぐ生物学的経路はいまだ十分解明されていないが、ニコチンがう蝕に与える影響についての研究が進んでいる。*in vitro* 研究や *in vivo* 研究において、ニコチンの曝露によるう蝕の進行の促進、*Streptococcus mutans* の菌面への付着や成長の促進、バイオフィルムの形成や代謝の促進などが確認されている。

●略歴● 1990年 大阪大学卒業／2000年 歯学博士（大阪大学）、日本口腔衛生学会学術賞“LION AWARD”受賞

* * *

S

シンポジウム



パシフィコ横浜会議センター（オンライン配信会場）